

技能グランプリでポラスグループの 隅さんが銀賞を受賞

馬場さんと東吉さんも敢闘賞を獲得

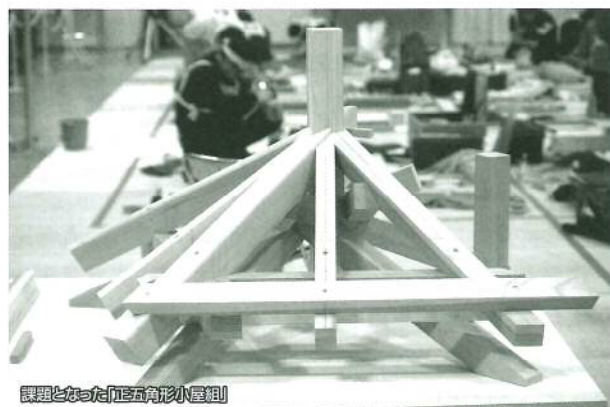
木造軸組住宅の建設に高い熟練の技を発揮

熟練技能者たちが日頃の技を競い合う「第30回技能グランプリ」(主催＝厚生労働省、中央職業能力開発協会、全国技能士会連合会など)が、3月1日から4日まで神戸市内で開催され、建築大工部門に出場したポラスグループに所属する隅悠多さん(29歳)が銀賞を受賞、馬場和樹さん(32歳)と東吉雄一さん(31歳)がそれぞれ敢闘賞を受賞した。建築大工部門には各都道府県の代表47人が出場して難しい課題に挑戦、受賞した3人は冷静に課題の作製を続け、高い技術力を身に付けていることを証明した。



会場一面に広がり47人が技を競った

技能グランプリは、特級や1級、単一等級の技能検定に合格した熟練技能士たちが日頃の技術力を競う大会で、2年に1回開催されている。天皇家御在位三十年記念として開催された今回の大会は、建築大工のほかに建具や寝具



課題となった直角三角形小屋組

など30職種に分かれ約530人が参加した。

建築大工部門では、桁組に屋根を掛けた「正五角形小屋組」という複雑な架構が課題として出され、延べ約11時間という短時間で技術を競い合った。競技は原寸図の作成から部材の木削り、墨付け、加工、組み立てという手順が進められた。出場者は1坪大の作業スペースに広がり、競技委員や応援に駆け付けた企業関係者、親族が見守る中で黙々と課題に取り組んだ。

隅さんは2大会連続で入賞を果たす
3人とも作業終了でホッとした表情

銀賞を受賞した隅さんはポラスグループのポラスハウジング協同組合(中内晃次郎代表理事)に所属し、同グルー



作製に専念する隅さん

プで木造軸組住宅の施工に携わっている。前回の技能グランプリ静岡大会で敢闘賞を受賞しており、これで2大会連続の入賞。23歳以下の技能者を対象とした技能五輪でも3年連続で入賞し、2011年の大会では金賞を獲得していた。昨年に行われた青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰(主催＝国土交通省)では建設ジュニアマスターとして顕彰されていた。

敢闘賞を受賞した馬場さんも同ハウジング協同組合に所属し、3回目の入賞となった。隅さんと同様に技能五輪で2006年から3大会連続で入賞した実績を持っている。東吉さんは同グループのポラテック(株)埼玉中央工事課で木造軸組住宅の施工を担当しており、今回で4大会連続の入賞となった。2008年の技能五輪に出場して銅賞を獲得していた。

競技では、原寸図の作成が時間内にできずに次の作業に進めなかった参加者も見られた一方、入賞した3人は終始一心不乱に課題を製作した。締め切り時間の約30分前から組み立てが始まり、会場内から課題を製作する小気味よい音を響かせていた。最終時間内に組み立てることができなかった出場者も多かったが、作業を無事に終了した3人は日頃の施工現場と同様に作業スペースの清掃を行い、安心した様子だった。

4日午前には神戸ポートピアホテルで行われた表彰式では、主催者を代表して技術講評を行った田中晃・職業能力開発総合大学教授が「神戸市を中心に7会場で開催されましたが、いずれも高いレベルの競技でし

た。参加した皆さんの日々の努力に敬意を表します。今後は次の世代の育成者となるよう期待します」と挨拶した。

技術を木造住宅の建設に反映
グランプリで6大会連続入賞

表彰式会場では金賞、銀賞、銅賞の各受賞者が表彰台上に上り、田中教授から銀メダルを胸にかけてもらっていた。式典終了後に隅さんは、「事前の練習期間が短くて心配していましたが、図面の解析でつまづいてスタートが遅れてしまいましたが、今はホッとしています。次回

の大会こそもう一つ上のメダル獲得を目指して頑張ります」と笑顔で語っていた。

両親と妻子が応援に駆け付けていた馬場さんも「作業は難しく何とか組み立てまで終了することができました。会社や皆さんの声援のお陰と感謝しています」と語っていた。東吉さんも、「一時は時間内に終了できるか心配でしたが、ぎりぎりまで間に合い良かったです」と語っていた。

ポラスグループでは、入賞した3人のほかに山田一貴さん(26歳)も出場していたが、惜しくも入賞することはできなかった。山田さんは「次の大会で壇上に登れるよう技量を高めます」と再来年に開催される名古屋大会での入賞を誓っていた。

これでポラスグループの技能グランプリの入賞は第25回大会から6大会連続となった。同社では埼玉県越谷市にポラス建築技術訓練校を運営しており、「お客さまに良質な木造軸組住宅を提供できるよう、技能者の技術向上を図っていきます」と語っている。



銀賞を獲得した隅さん(中央)。右が東吉さん、左が馬場さん